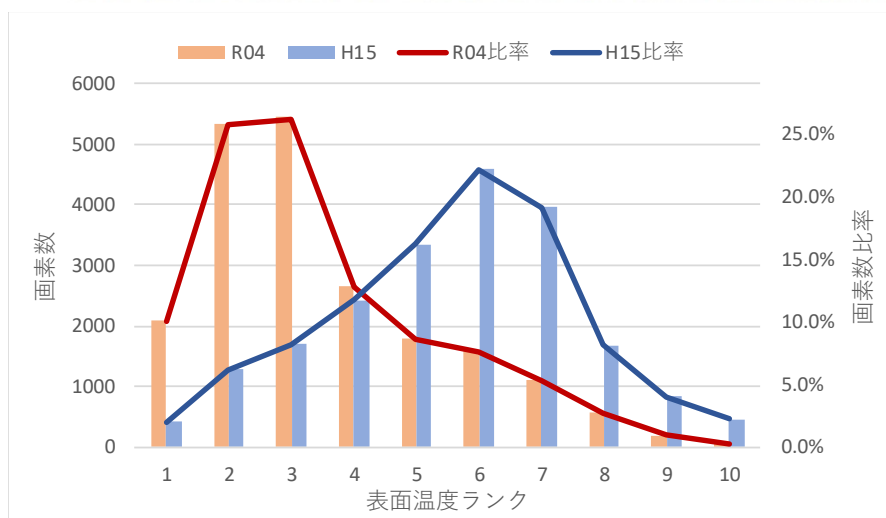
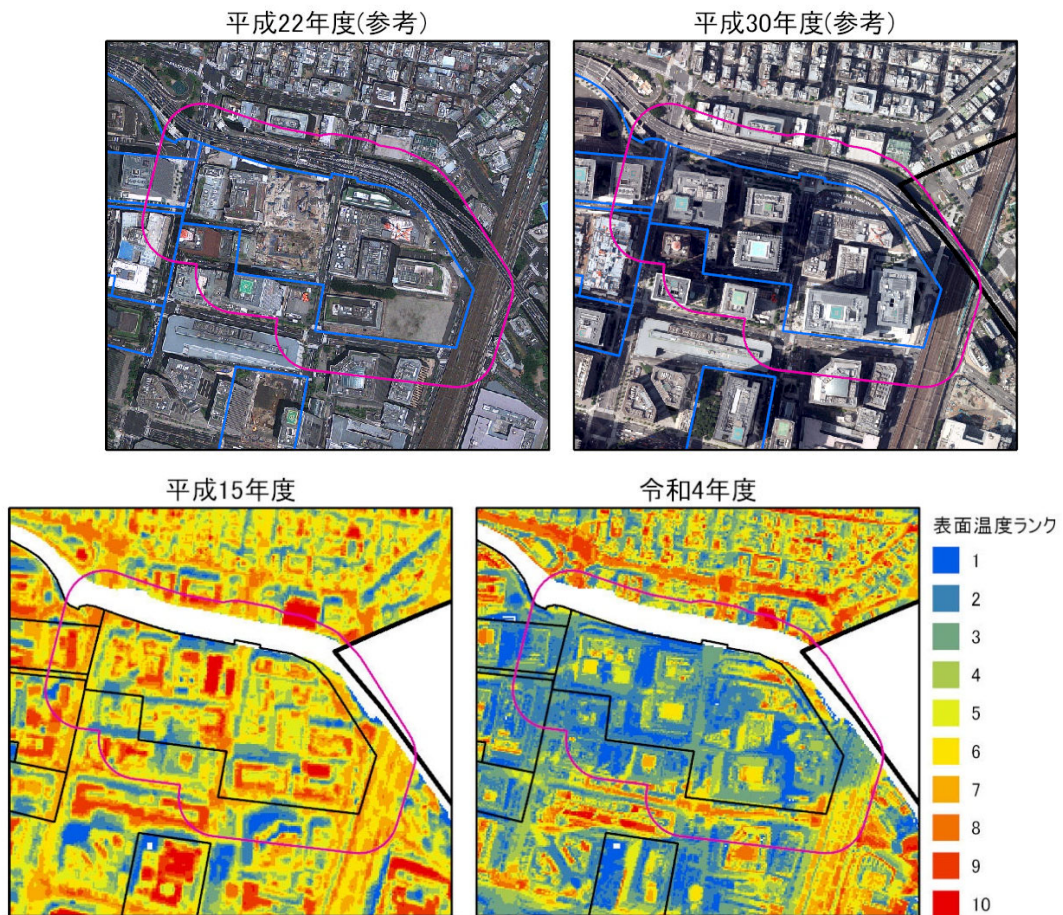


り、再開発エリア内における最低温度、平均温度も年々低下していることがわかる。

○再開発周辺エリアの比較

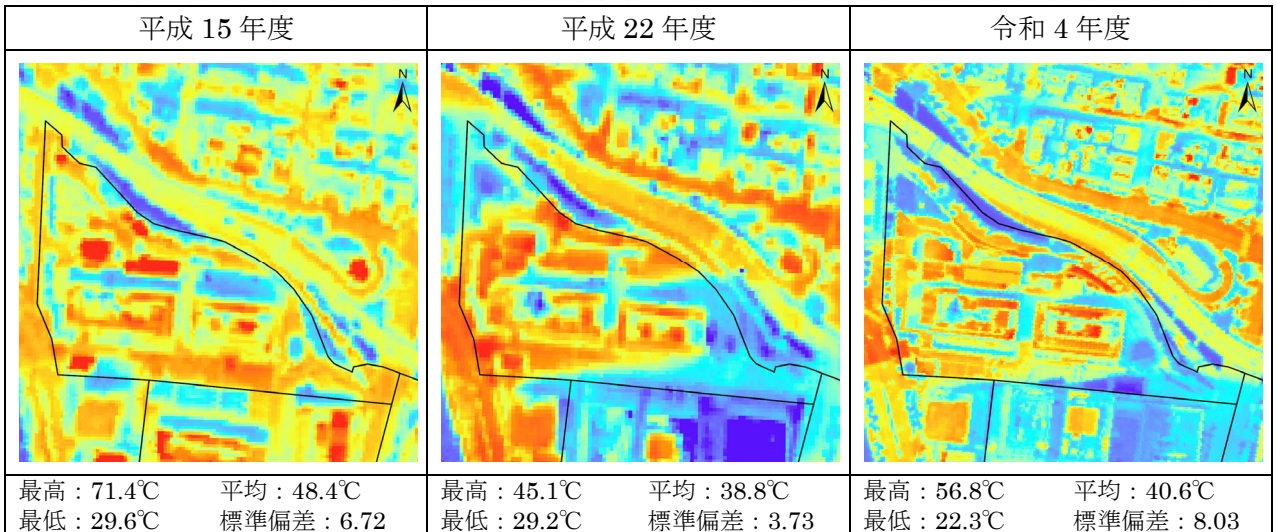
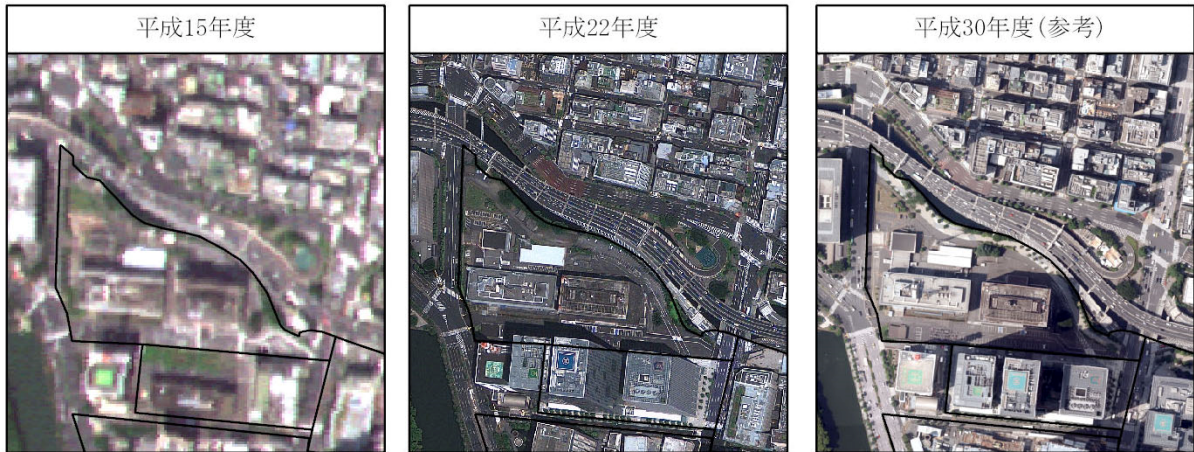
再開発エリアとその外側 60mを再開発エリア周辺として、平成 15 年度と令和 4 年度の表面温度ランク数値を求め、その変化をグラフに表した。平成 15 年度は空中写真の解像度が粗いため、参考として平成 22 年度の衛星画像を示す。また、令和 4 年度は可視画像を撮影していないため、参考として平成 30 年度撮影の航空写真を示す。



平成 22 年度と平成 30 年度の写真を見ると、このエリアではほとんどの建物が建替えられている。表面温度ランク数値は 2.08 低下しており、温度ランクのピークも 6 から 3 に下がっている。温度分布を見ると、平成 15 年度にはランク 9、10 を示していたものが、令和 4 年度では屋上と見られる箇所がランク 6、その他の箇所では 4 以下を示している。エリア周辺でも表面温度ランクの低下が見られる。

○大手町都市再生特別地区Cゾーン(平成 21 年工事完了 : No. 8)

大手町連鎖型都市再生プロジェクトの一角として、業務活動を中断することなく、老朽化した建物を連鎖的に建替えることで、大手町をグローバルビジネスの戦略拠点として再構築した地区である。この地区は、国有財産の有効活用街区として位置づけられる。



※令和 4 年度は航空写真を撮影していないため、平成 30 年度の緑被調査の航空写真を参考に記載

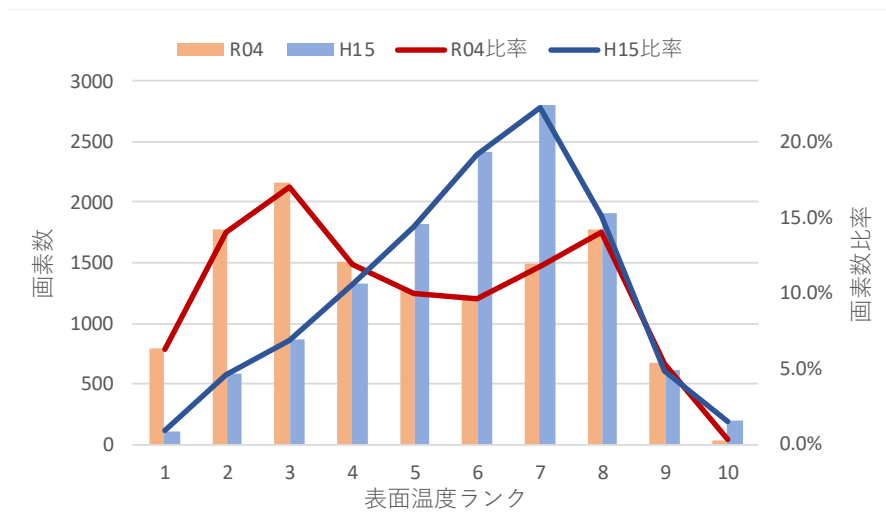
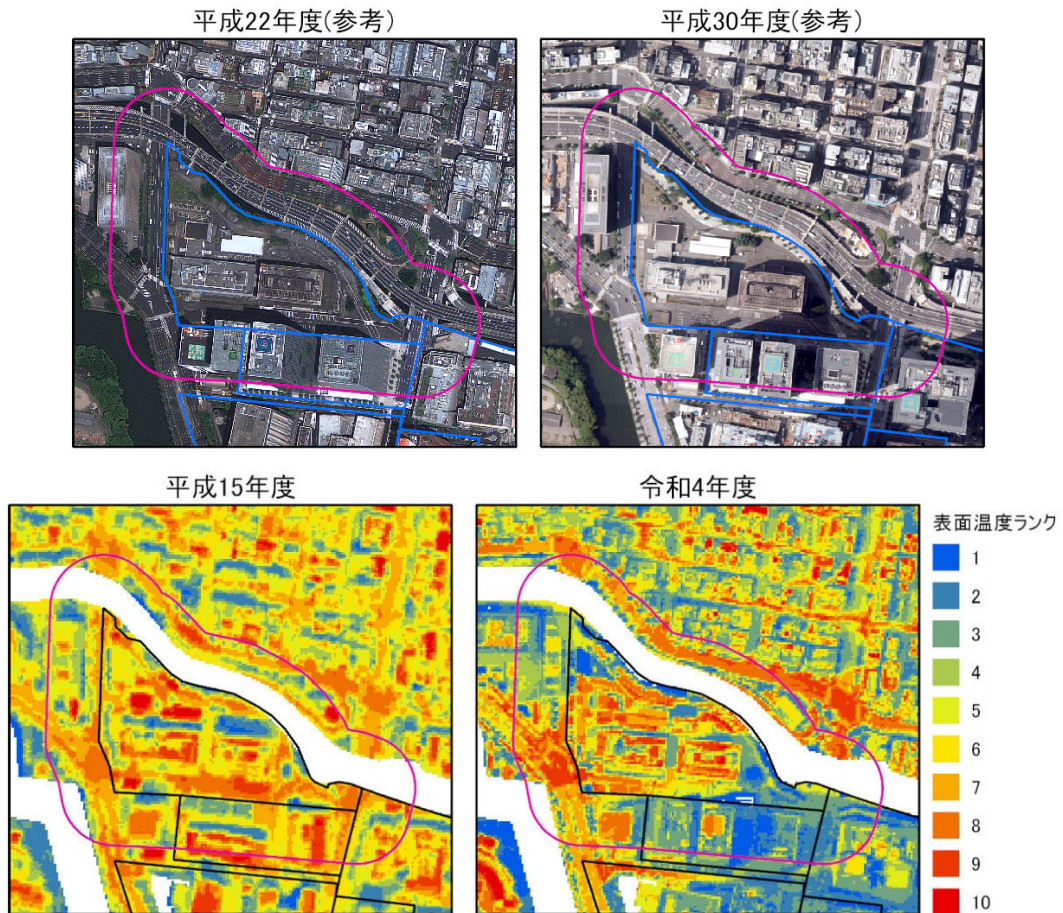
高
低

建物の表面温度に大きな変化は見られないが、エリアの北東に緑地が設置され、低温部を形成している。また、平成 15 年度に比べ、最高温度は約 15℃低下しており、再開発エリア内に

おける最低温度も年々低下していることがわかる。平成 21 年度工事完了のため、平均温度は平成 22 年度と令和 4 年度で約 2℃しか差がなく、平均温度の低下が開発によるものと推察される。

○再開発周辺エリアの比較

再開発エリアとその外側 60mを再開発エリア周辺として、平成 15 年度と令和 4 年度の表面温度ランク数値を求め、その変化をグラフに表した。平成 15 年度は空中写真の解像度が粗いため、参考として平成 22 年度の衛星画像を示す。また、令和 4 年度は可視画像を撮影していないため、参考として平成 30 年度撮影の航空写真を示す。



表面温度ランク数値

令和4年度	4.85
平成15年度	5.94

このエリアでは建物の配置はあまり変わっていないが、緑化された建物の周囲とエリア周辺で地表面温度ランクが低下した。温度ランクのグラフから平成 15 年度にはランク 7 をピークとするのに比べて、令和 4 年度はランク 8 にもピークはあるが、ランク 3 がピークとなっている。ただし、ランク 8 も平成 15 年度より画素数が減少している。その結果、表面温度ランク数値は 1.09 の減少となった。